

平成28年2月18日
於
府中市立教育センター

平成28年第2回

府中市教育委員会定例会議事録

府中市教育委員会

平成28年第2回府中市教育委員会定例会議事録

1 開 会 平成28年2月18日(木)

午後1時30分

閉 会 平成28年2月18日(木)

午後2時20分

2 議事録署名員

教育長 浅 沼 昭 夫

委 員 崎 山 弘

3 出席者

教育長 浅 沼 昭 夫 委 員 崎 山 弘

委 員 齋 藤 裕 吉 委 員 村 越 ひろみ

委 員 松 本 良 幸

4 欠席者

なし

5 出席説明員

教育部長 今 永 昇 文化スポーツ部長 後 藤 廣 史

教育部副参事兼指導室長 文化振興課長補佐 渡 辺 純 子

三田村 裕 ふるさと文化財課長補佐 黒 澤 明 美

総務課長 志 摩 雄 作 生涯学習スポーツ課長補佐 宮 崎 誠

総務課長補佐 北 村 均 図書館長 坪 井 茂 美

学務保健課長 酒 井 利 彦 図書館長補佐 山 本 征 史

給食担当主幹 鈴 木 哲 夫 美術館副館長 須 恵 正 之

学務保健課長補佐 山 田 晶 子

指導室長補佐 古 塩 智 之

統括指導主事 日 野 正 宏

統括指導主事 国 富 尊

指導主事 山 本 勝 敏

指導主事 坂 元 竜 二

指導主事 林 田 孝 子

指導主事 駒 澤 文 泰

6 教育委員会事務局出席者

総務課係長 遠 藤 公巳明

総務課主任 鈴 木 紘 美

議 事 日 程

第1 議事録署名員指名について

第2 会期決定について

第3 議 案

第9号議案

平成28年度学校医等の変更について

第10号議案

府中市子ども読書活動推進委員会規程

第11号議案

平成28年度府中市美術館企画展観覧料について

第4 報告・連絡

- (1) 府中少年少女合唱団第33回定期演奏会について
- (2) 郷土の森博物館市指定有形文化財旧河内家住宅「かやぶき屋根ふき替え工事見学会」について
- (3) 府中市遺跡調査会40周年記念事業「発掘でわかった昔の府中」について
- (4) 平成27年度平和啓発事業「平和展」の開催について
- (5) 府中市立図書館における利用サービスの見直しについて
- (6) 企画展「ファンタスティック 江戸絵画の夢と空想」の開催について

第5 その他

第6 教育長報告

第7 教育委員報告

午後1時30分開会

○教育長（浅沼昭夫君） ただいまより、平成28年第2回府中市教育委員会定例会を開会いたします。

_____ ◇ _____

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第1、議事録署名員指名につきまして、本日の議事録署名員は、私のほか崎山委員にお願いいたします。

_____ ◇ _____

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第2、会期の決定でございますけれども、会期は本日1日といたします。

_____ ◇ _____

◎傍聴許可

○教育長（浅沼昭夫君） 傍聴希望者がおりますので、許可してよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 傍聴の方に申しあげます。本日の第9号議案につきましては、個人情報に記載されているため、資料の配付を省略させていただいておりますので、ご承知おきください。

_____ ◇ _____

◎第9号議案 平成28年度学校医等の変更について

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第3、議案につきまして、議案の審議に入ります。

第9号議案の朗読をお願いいたします。

（事務局朗読）

○教育長（浅沼昭夫君） 説明をお願いします。

○学務保健課長補佐（山田晶子君） それでは、第9号議案、平成28年度学校医等の変更についてご説明いたします。

平成28年度学校医等の委嘱につきましては、当年1月の教育委員会定例会におきましてご承認をいただいているところです。このたび、府中市医師会及び府中市歯科医師会から、担当医を変更する旨の連絡を受けたことにより、次のとおり委嘱をお願いするものでございます。

恐れ入りますが、1ページ目をお開きください。本年1月の教育委員会定例会において、新町小学校内科医を引き続き笛木孔二先生の委嘱についてご承認いただきましたが、河村豊先生に変更するものでございます。なお、河村豊先生につきましては、府中第六小学校と兼務いたします。

次に、学校歯科医につきましては、平成27年度に引き続き、府中第十小学校の太田高之先生及び府中第七中学校の柳澤正三先生に委嘱することについてご承認いただきましたが、太田高之先生の後任に鈴木和夫先生、柳澤正三先生の後任に木村純一先生に委嘱をお願いするものでございます。

委嘱期間は、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの1年間を予定しております。

以上で説明を終わります。審議のほど、よろしくをお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。
ご意見いかがでしょうか。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、お諮りします。第9号議案、平成28年度学校医等の変更について、決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 全員異議なしですので、承認いたします。



◎第10号議案 府中市子ども読書活動推進委員会規程

○教育長（浅沼昭夫君） 次に、第10号議案に移ります。

議案の朗読をお願いいたします。

（事務局朗読）

○教育長（浅沼昭夫君） 説明をお願いします。

○図書館長補佐（山本征史君） ただいま議題となりました第10議案、府中市子ども読書活動推進委員会規程についてご説明いたします。

府中市子ども読書活動推進計画に基づきまして、平成16年2月に府中市子ども読書活動推進連絡会設置要綱を施行し、府中市子ども読書活動推進連絡会を設置してまいりました。子どもの読書活動の推進にかかわる部署の職員により構成され、関係部署において各種事業を実施しているところでございます。しかしながら、全庁的に統一が図られているルールに従い、本連絡会は職員のみで構成させる会議であることから、要綱ではなく規程となるべき案件であり、また、府中市子ども読書活動推進計画の策定案を検討する会議であることから、連絡会ではなく委員会という名称に変更すべきという結論に至り、本年4月1日から、府中市子ども読書活動推進委員会規程を新設するものです。なお、これまでの府中市子ども読書活動推進連絡会設置要綱は同時に廃止とさせていただきます。

よろしくご審議くださいますよう、お願い申し上げます。

○教育長（浅沼昭夫君） 中身についてはよろしいですか。

事務局の説明が終わりました。何かご質問ございますか。

○委員（齋藤裕吉君） 子ども読書活動というタイトルに関連しまして、委員会のメンバーは内部の部署の職員ということですが、例えば校長会等学校関係者から委員の選出をするというようなことは考えていらっしゃらなかったのかどうかお聞きしたいと思います。

○図書館長（坪井茂美君） 校長先生などからご意見をいただくという場としまして、校長会でも私どもからご意見を求めたり、またサービス検討会議というのが別にございまして、校長先生に出席していただき、その中で子ども読書についてもご意見をいただく場を設けてございます。そのため、この子ども読書活動推進委員会につきましては、あくまで子どもの関係する部署の職員が市の政策として運営して、また推進していくため、このメンバーにさせていただいたものでございます。以上でございます。

○委員（齋藤裕吉君） そのような考えであれば、それでも結構だと思いますが、例えば先日、府教研で図書館部が熱心な研究活動の報告などをいたしておりました。先生方は子どもたちの読書活動の推進ということについては非常に意を用いて取り組んでもらっていると

ころでありますし、しかも学校の教職員は間接的ではありますが、教育委員会の任命にかかわる職員でもありますので、この案でいきますと、教育部指導室などの部署を通して、学校現場の様々な具体的な意見をこの中に取り入れてほしいと思います。その点、ぜひ向こうは向こう、こちらはこちらということではなくして、ぜひ積極的に現場の声を取り入れるような取組を進めていただければありがたいなと思います。

○図書館長（坪井茂美君） 追加でございますが、先ほど申しあげましたサービス検討会議の中の校長先生というのは、府教研の図書館部会の先生でもございますので、そちらからもご意見を積極的にお受けして推進していきたいと思います。以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） ほかにご意見等はございますか。

それでは、お諮りします。第10号議案、府中市子ども読書活動推進委員会規程について、決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、全員異議なしですので、原案どおり決定いたします。



◎第11号議案 平成28年度府中市美術館企画展観覧料について

○教育長（浅沼昭夫君） 次に、第11号議案に移ります。

議案の朗読をお願いいたします。

（事務局朗読）

○教育長（浅沼昭夫君） 説明をお願いします。

○美術館副館長（須恵正之君） それでは、ただいま議題となりました、第11議案につきましてご説明いたします。

お手元の議案書裏面をご覧ください。1の平成28年度府中市美術館企画展の展覧会名、期間、観覧料につきましては、（1）から（5）それぞれ記載のとおりです。なお、秋の海外展「生誕130年記念 藤田嗣治展」は、大型企画展のため、一般1,000円として設定しております。

企画展の内容としましては、（1）の「立石(たていし)鐵臣(てつおみ)」は、戦前岸田劉生、梅原龍三郎に学び、台湾に渡り活躍した、今なお台湾で有名な油彩画家です。戦後帰国し、制作された手書き標本画は高く評価され、細密画の第一人者となりました。遺族の協力のもと、全面的な作品調査により、全体像を紹介いたします。（2）の夏休み企画展「とことん!夏のびじゅつ(じ)かん」は、色々なしかけを通して、じっくり時間をかけて作品を見たり、知ったり、作ったりできる展覧会です。（3）の「生誕130年記念 藤田嗣治展」は、20世紀フランス・パリで活躍し、世界的に有名な作家藤田嗣治の回顧展です。名古屋市美術館と兵庫県立美術館との共同企画により、フランス・ランス市に寄贈された未公開作品を含む国内外の代表作を紹介します。（4）の「ガラス絵」展は、日本におけるガラス絵の歴史を体系的に追いつつ、特に近代洋画家のガラス絵に焦点を当て、その輝きと魅力を紹介します。（5）の「歌川国芳 21世紀の絵画力」では、2010年に開催した歌川国芳展の第2弾になります。国芳ブームの中、時代を超えた国芳の造形世界を紹介します。

次に、2の団体料金等につきましては、（1）の企画展の団体観覧料(20人以上)につきましては、1人1回につき、各展覧会個人観覧料の2割引きとするものです。（2）のメンバ

ーシップ会費につきましては、記載のとおりでございます。(3)のメンバーシップの団体会費(20人以上)につきましては、1人につき、メンバーシップ料金の2割引きとするものです。(4)の賛助会員会費につきましては、美術館をサポートしていただける個人、団体、企業、大学を募るもので、記載の通りです。

以上で、説明を終わります。よろしくご審議くださいますようお願いいたします。

○教育長(浅沼昭夫君) 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

○委員(松本良幸君) 以前にも聞いて、申し訳ないのですが、メンバーシップ会員の方と賛助会会員の方は、年間パスポートのような形でしたでしょうか。それとも、割引価格で入場できるのでしょうか。

○美術館副館長(須恵正之君) メンバーシップ会員の方と賛助会員の方も、年間企画展等も無料で観覧できるような形になっております。

○委員(松本良幸君) ありがとうございます。では、美術好きの方はぜひ入ったほうがお得ということになりますね。特別展示のときも含めて追加料金を徴収したりはないのでしょうか。

○美術館副館長(須恵正之君) 委員のおっしゃるとおり、無料で観覧できるような形になっております。

○委員(松本良幸君) ありがとうございます。ぜひ、私も入り利用したいと思います。ありがとうございます。

○教育長(浅沼昭夫君) ほかにご意見はいかがでしょうか。

○委員(村越ひろみ君) そのメンバーシップ会員はどれくらいいるのでしょうか。今増えているのでしょうか。

○美術館副館長(須恵正之君) 入会から1年間という形になっておりまして、現在の正式な人数ではないのですが、約380名の会員がおります。

○教育長(浅沼昭夫君) 年々の推移についてはいかがですか。

○美術館副館長(須恵正之君) いろいろな大学にもお知らせをさせていただいているところございまして、会員については増えてきている状況でございます。

○委員(村越ひろみ君) 分かりました。ありがとうございます。

○教育長(浅沼昭夫君) ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、お諮りします。第11号議案、平成28年度府中市美術館企画展観覧料について、決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、全員異議なしですので、原案どおり決定いたします。

————— ◇ —————

◎府中少年少女合唱団第33回定期演奏会について

○教育長(浅沼昭夫君) 続いて、日程第4、報告・連絡に移ります。

報告・連絡(1)を文化振興課、お願いいたします。

○文化振興課長補佐(渡辺純子君) それでは、お手元の資料1に基づき、府中少年少女合唱団第33回定期演奏会の開催につきましてご説明いたします。

府中少年少女合唱団は、昭和57年に府中市教育委員会が青少年の健全育成を図ることを

目的に設立いたしました。団員数は45名で、専門の講師の指導の下、毎週土曜日に生涯学習センターにおいて練習を重ねております。今年の定期演奏会は、開催日が3月30日水曜日、午後2時開場、2時半開演で、会場は府中の森芸術劇場ふるさとホールでございます。当日は、音楽劇「青い鳥さがそう」や、ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」のほか、多彩なプログラムを実施いたします。委員の皆様におかれましては、ぜひ団員の日頃の練習の成果をご高覧いただきたく、ご案内申しあげます。以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） ご質問、ご意見ございますか。よろしいですか。

それでは報告・連絡（1）について了承いたします。

◇

◎郷土の森博物館市指定有形文化財旧河内家住宅
「かやぶき屋根ふき替え工事見学会」について

◎府中市遺跡調査会40周年記念事業「発掘でわかった昔の府中」について

○教育長（浅沼昭夫君） 報告・連絡（2）及び（3）を一括して、ふるさと文化財課、お願いいたします。

○ふるさと文化財課長補佐（黒澤明美君） それでは、ふるさと文化財課から2件、報告させていただきます。

まず、1件目は、郷土の森博物館市指定有形文化財旧河内家住宅「かやぶき屋根ふき替え工事見学会」につきまして、資料2に基づきご報告いたします。

先日、駅伝大会より郷土の森博物館にお越しいただき、旧河内家住宅のかやぶき屋根のふき替え中の様子や、太宰府の梅、それから特別展をご覧いただきまして、ありがとうございます。現在、17年ぶりにかやぶき屋根ふき替え工事を行っております「旧河内家住宅」は、170年ほど前に旧大沢村（現三鷹市大沢）から、旧人見村（現若松町）に移築され、昭和58年に市指定有形文化財となり、昭和61年に郷土の森博物館に移築・復元されました。今では希少となったかやぶき屋根のふき替えの様子を間近で見る機会として、今週の20日土曜日に見学会を開催いたします。見学の時間は、午前11時、午後1時、午後2時の3回実施し、旧河内家住宅の解説及びふき替え工事の工程を、写真パネルを用いて解説いたします。雨天の場合は21日に延期となります。

続きまして、府中市遺跡調査会40周年記念事業「発掘でわかった昔の府中」につきまして、資料3に基づきご報告いたします。

昭和50年に府中市遺跡調査会が発足し、本格的な発掘調査が始まり、多くの市民や民間事業所などのご協力と理解のもと、40年間で1,700カ所を超える発掘調査を実施してまいりました。これまでの文献では分からなかった府中の歴史をひもとく上で、発掘調査は考古学的に大変貴重な成果を数多く上げてまいりました。40年間に渡る発掘調査の研究成果と、遺跡調査会が果たしてきた役割や意義を再確認するため、遺跡調査会発足40周年を記念して、「発掘でわかった昔の府中」をテーマで講演会を開催いたします。開催日時は、今月の27日土曜日、午後1時半から5時まで。会場は、府中グリーンプラザけやきホールです。記念講演を始め、ディスカッションやスライド上映も予定しております。ぜひ、ご来場をお待ちしております。

報告は以上となります。よろしく願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） この2件につきまして、ご意見、ご質問ございますか。
それでは報告・連絡（2）及び（3）について了承いたします。



◎平成27年度平和啓発事業「平和展」の開催について

○教育長（浅沼昭夫君） 報告・連絡（4）を生涯学習スポーツ課、お願いいたします。

○生涯学習スポーツ課長（宮崎 誠君） それでは、平成27年度平和啓発事業「平和展」の開催につきまして、お手元の資料4に基づき報告いたします。

3月8日火曜日から14日曜日まで、生涯学習センターにおきまして、3月10日の東京都平和の日にならみまして「平和展」として、戦争に関する資料展示を行います。詳細は資料のとおりでございますので、ご参照くださいますようお願い申し上げます。以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） この件につきまして、ご意見、ご質問ございますか。
それでは報告・連絡（4）について了承いたします。



◎府中市立図書館における利用サービスの見直しについて

○教育長（浅沼昭夫君） 報告・連絡（5）を図書館、お願いいたします。

○図書館長補佐（山本征史君） 図書館から資料5に基づき、府中市立図書館における利用サービスの見直しについてご報告いたします。

はじめに、東京農工大学図書館との相互協力について、ご報告いたします。国立大学法人東京農工大学図書館（以下、農工大学図書館といいます。）及び府中市立図書館は、市立図書館利用登録者（市内在住・在学・在勤の高校生以上）及び農工大学に所属する学生並びに教職員等の学習・教育研究活動の向上を図るため、図書館間の円滑な相互利用を行うことといたします。大学図書館は、公立図書館が収集しないような専門資料が多く、また小金井市は既に農工大学図書館と相互協力を行っており、市民からの要望が増えたことなどから相互協力を行うものです。相互協力の内容ですが、現在、農工大学図書館において利用開放が行われており、館内での閲覧が可能です。今後、市内在住・在学・在勤の高校生以上の当館利用登録者は、農工大学図書館の資料について、農工大学図書館窓口で直接借用できるようとなります。なお、農工大学生は、市内在学により当館の利用登録が可能です。実施日は平成28年4月1日からになります。

続きまして、団体貸出数量の見直しについてご報告いたします。団体貸出は、教育及び文化の向上に寄与する目的で設立していますが、本市の区域内にその活動の本拠を置く団体で、かつ資料の利用により団体活動に多大な効果が見込まれ、その利用に継続性がある団体に対して、一般利用者よりも貸出数量を増やして、貸出期間についても長くして貸出を行うものです。なお、本の選書、運搬は、一般利用者と同様に団体貸出利用者が図書館に来館して行います。このたびの見直しは、平成26年度に団体貸出の登録団体から貸出数量の増加を求める要望があったことを受けまして、より幅広く資料を活用してもらうため、貸出数量の上限を300冊から350冊に増やすものでございます。実施日は平成28年4月1日からになります。以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） この件につきまして、ご質問、ご意見ございますか。

○委員(崎山 弘君) 細かい話になってしまうのですが、団体貸出の数量の教え方について、年間の総貸出数なのか、それとも1日最大なのか教えていただけますか。

○図書館長補佐(山本征史君) この300冊から350冊となったのは、1回の数量でございませう。以上でございませう。

○委員(崎山 弘君) 一度必要な申し出をしていただいて貸し出し、それをその団体の中の皆さんで読むというイメージでよろしいですね。ありがとうございました。

○委員(齋藤裕吉君) 崎山君と関連して、団体貸出の登録団体というのは、どのような団体があるのか、差し支えない範囲で教えてください。

○図書館長補佐(山本征史君) 団体の種類ですけれども、保育園、幼稚園、福祉施設やお話の会などの自主グループなどがございませう。以上でございませう。

○委員(齋藤裕吉君) 学校にこだわった発言ばかりで申し訳ないのですけれども、小・中学校の場合は、貸出団体という登録の枠の外なのですか。

○図書館長(坪井茂美君) 公立の小・中学校におきましては、これとは別に、各学級ごとに貸出しをします学級貸出しというサービスがございませうので、そちらを利用していただいております。また、先ほど申しあげました保育園などにつきましては、私立の保育園でありまして、公立の保育園、幼稚園等に関しましては、既に市の部署と同じように登録をしてご利用いただいております。以上でございませう。

○教育長(浅沼昭夫君) よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

○委員(崎山 弘君) その団体利用について、300をもっと増やすという要望が出たということなのですが、300冊以上一気に借りるとするのは、具体的にどのような事例があるのか想像がつかないので教えてください。

○図書館長(坪井茂美君) こちらに関しましては、具体的には団地の皆様で構成されているグループでございまして、その団地の住民の皆様向けに本を貸し出すサービスを行っているところでございませう。そちらの団地が2カ所ございまして、それが各々300冊では足りず、多くの利用者、住民の方にご利用いただきたいということで、ご要望があったものでございませう。以上でございませう。

○教育長(浅沼昭夫君) ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、報告・連絡(5)について了承といたします。



◎企画展「ファンタスティック 江戸絵画の夢と空想」の開催について

○教育長(浅沼昭夫君) 報告・連絡(6)を美術館、お願いいたします。

○美術館副館長(須恵正之君) それでは、美術館からお手元の展覧会チラシに基づき、次回の展覧会のご報告をさせていただきます。

3月12日(土)から5月8日(日)まで、企画展「ファンタスティック 江戸絵画の夢と空想」を開催いたします。チラシをお開きください。絵画は、夢や空想を映し出す空間でもあります。本展では、江戸時代の人々が見た夢のかたちを絵画作品によってお楽しみいただきます。不思議な仙境の風景や仙人たちの世界、伝説、妖怪。あるいは、情報の浸透や科学の発達から生まれた異国や宇宙への夢。そんな作品の数々が私たちを夢ごこちにしてくれます。本展は、美術ファンに定着してきた府中市美術館「春の江戸絵画」展シリーズです。江戸時代全般

に渡り、与謝蕪村、河鍋暁斎、長沢蘆雪ら、前期、後期あわせて、およそ160点の作品をご覧いただきます。今回は、全出品作品の展示替えを行います。前期は桜の咲く4月10日まで。一日で展示替えを行って、後期は4月12日から始まり、5月の連休まで続きます。会期中、展覧会講座や20分スライドレクチャー、毎年恒例の子ども達を対象としたワークシートを利用した「ファンタスティック探検隊」などを開催します。また、常設展示室では、「明治・大正・昭和の洋画」そして、牛島憲之記念館では「初期から晩年まで」を開催いたします。ぜひ、ご覧いただきたくご案内申し上げます。

以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） この件につきまして、ご質問、ご意見ございますか。よろしいですか。

それでは、報告・連絡（6）について了承いたします。



◎その他

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第5、その他でございますけれども、何かございますか。



◎教育長報告

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、日程第6、教育長報告に移ります。

活動状況につきましては、別紙の平成28年第2回教育委員会定例会、教育委員会活動報告書のとおりでございます。なお、この報告書は、平成28年1月16日から2月12日までの活動内容となっております。私からは以上です。



◎日程第7 教育委員報告

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第7、教育委員報告に移ります。活動状況については別紙のとおりでございます。それでは、崎山委員にお願いをいたします。

○委員（崎山 弘君） 私からは、活動報告にも書かれてはいるのですが、2月5日金曜日に開催された府中第一小学校の研究発表会について報告いたします。

今回の研究発表のテーマは、「小学校における言語教育活動の活性化～外国語活動を主眼として～」でありました。平成23年度より、小学校において新学習指導要領が全面实施され、5年生、6年生で年間35時間の外国語活動が必修化された中、現在小学校に求められている外国語活動は、音声を中心に外国語になれ親しませ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することだと考えられています。しかし、小学校の先生方は、大学を卒業するまでにそのような外国語の授業をすることを習ってきたわけではありません。小学校の先生になってから外国語の授業をすることが求められるようになった。ある意味、もともと外国語、特に英語だと思いますが、それが堪能であっても苦手であっても、好きであっても嫌いであっても、無理やり外国語教師に仕立て上げられる点があることは否めません。

今回の研究発表は、そのような小学校の先生が1年生から6年生まで英語の授業をする、それも第三者から評価される公開授業で行うということはとても大変なことであり、相当な準備が必要です。そのような状況の下、インフルエンザなど当日の突発的な理由で公開授業を実施できなかったクラスがあったことはやむを得ないことですが、その他全ての学級で研

究発表授業を実施したことは賞賛されるべきことだと思いました。出席されたほかの学校の先生方にとっても、今後小学校の教諭はどのように授業を作り上げるかについて、利用価値の大きい成果が共有できた、有意義な研究発表会であったと私は思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。齋藤委員、お願いいたします。

○委員（齋藤裕吉君） 私からも、研究発表会に参加しての感想を申し述べたいと思います。

府中第五小学校、府中第五中学校、府中第一小学校、そして、小中学校教育研究会と4つの研究発表会がこの間にありましたけれども、いずれの発表におきましても各学校の先生方の熱心な研究と実践の取組の成果が報告され、とても素晴らしいことだと思いました。府中市教育委員会が推進している小中連携教育やコミュニティスクールの視点というものに立った、そして、また今後の大きな教育課題を捉えた研究など、どれも市内の全校に広めたい内容ばかりであったと思います。

それらの研究の中で、今後さらに深めなければならないと思ったのは、崎山先生と本当に同じで、私も驚きながらお話を伺っていましたが、府中市報で取り上げたような小学校における外国語活動のあり方についてでございます。次の教育課程の改定においては、外国語活動が小学校5、6年生から3、4年生にまで下りてくるようになるわけですが、それを学校現場でどう受けとめて、どう指導を進めていくべきなのか、大きな課題だと思いました。

府中第一小学校では、公開授業の全てを日本人の担任教師が行っておりましたが、聞いたり話したりするという英語運用能力の基礎的な経験を得させようとするのであるならば、さらに研究を重ねる必要があると思いました。

例えば、自分の経験で申しますと、何年前かに国際線の飛行機の中で、自分の英語のヒアリング能力の低さを痛感したことがありました。アメリカ人の客室乗務員の男性が、ワゴンを押しながら、「ワラ、ワラ」と言っていて、私には全く意味が分かりませんで、「ん？」と言っているうちに、ワゴンが通り過ぎてしまったのですけれども、少ししてから「ああ、ウォーターのことか」と気がついたわけです。このような似た経験はほかにもいろいろございます。

日本語の母音というのは、ご存じのとおり、あいうえおの5つで、子音が15。ところが、英語の場合は、母音が31から、アメリカ英語は32と言われているようでありまして、日本語の母音とは全く数が違う。そして、子音が22と。これは子音と母音の組み合わせで発音がなされるわけですが、日本語の母音でこの音声を私は捉えてしまったわけですね。そういう傾向が強いのだと思います。例えば、こんなふうに音韻1つをとってみましても体系が全く異なる英語に、子どもたちがいつ、どのような形で触れればよいのか。また、そもそも母語の習得の臨界期、つまり完成する時期といわれる年齢が9歳、10歳のころというわけですが、それ以前に英語に触れさせる、それ以前に何を狙って外国語活動を行うのか、教師たちは自分の頭で考えて、その上で指導方法を考えていくべきではないかなと思いました。日本人の生活言語ではない英語の運用能力がなかなか身につかないというのは、いわば当然のことでありまして、それでは社会のグローバル化への対応という点ではどうすればよいのかということ、各人が真剣に考えなければならないのではないかなと思いました。

府中第一小学校の発表を見まして、その努力には大いに敬意を払いつつも、教育委員会としてもこういった点をよく考えて、今後の指導、助言を行っていくべきだろうと思った次第でございます。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。続いて村越委員、お願いします。

○委員（村越ひろみ君） 私も第一小学校の研究発表は、先生たちの努力がすごいなというのと、子どもたちがとても英語活動を楽しんでいるのがいいなと思いました。でも、私は少し違うところを報告したいと思います。

2月10日の府中第五中学校の地域学習プレゼンテーションについて報告したいと思います。少し長くなるかと思いますが、子どもたちの視点で学習した府中について、発表内容をお伝えしたいと思うので、よろしくお願いします。

そして、この発表会にぜひ高野市長に直接提言を伝え、その回答と発表に対するコメントをいただきたいとお願いしたところ、高野市長が快く受けてくださり、いらしていただきました。それも府中のキャラクター、ふちゅこまと一緒に登場されて場内を沸かせていました。

この発表は1年生が総合的な学習の中で、「郷土府中の課題を発見し追求する」というテーマを設定し、1年間かけて学習を進めてきた最終の発表会でした。1年間の流れとしては、1学期に社会科副読本を使って地域学習をし、保護者に府中の魅力のアンケートをすることで始まりました。2学期には各クラス8つのグループを作り、全体でいうと40グループになるのです。地域についての学習を深め、課題を設定し、テーマを設け、そのテーマに沿って活動計画を作り、フィールドワークによる取材、資料集めをしていきます。そのフィールドワーク先は17カ所に及びました。大國魂神社、ふるさと府中歴史館、浅間山、ルミエール府中、近隣の商店街、スーパーなどです。その中で、市の職員の皆さんも快くインタビューに応じてくださったと聞いています。そうして調べ学習をした後、グラフや表、地図やイラストなどを活用してまとめ、ポスターセッションによる発表、その後、プレゼンテーションソフトを活用しての発表が行われました。1月の府中第五中学校の研究発表会ではクラスの代表グループが発表していました。そして、今回最終発表ということで5つのグループによる市長さんへのプレゼンと意見交換が実現したというものです。

では、その5つのグループの発表内容を紹介したいと思います。市民サービスの視点から2つのグループが発表しました。1つ目は、いきいきプラザとピースプラザに行き、「府中市には、高齢者がいきいき暮らせる市民サービスがあるのでは」という仮説を立て、私たちにできることは、高齢者への声かけや手助けが大切だという内容でした。また、職員の方を増やし、サービスを充実させることが必要だとも言っていました。

2つ目のグループは、府中の森公園に行き、「府中市が誰もが暮らしやすいというのは、気軽に利用できる公共施設があるからでは」という仮説を立て、府中の森公園にいる市民にインタビューをし、中でも犬を連れている人、そうでない人の意見を聞いて、両者の共存を図るにはドックランのような施設があればよいのではという内容でした。

産業の視点のグループは、東芝府中事業所に行き、「府中の産業を支えているのでは」ということと、また市の工業出荷額の3割を占めていて、お祭りや地域清掃などにも地域にかかわっているということを知り、企業と市の提携を大切にしていることをもっと市民に知ってもらうためには、ポスター広告やイベントなどをしていったらよいという内容でした。

歴史の視点からのグループは大國魂神社に行き、「府中市には歴史的な建物が多く残っている」とし、建造物を大切に、市としてもっとアピールしてほしいし、自ら行事を盛り

上げていこうという内容でした。

最後に自然の視点から高安寺に行ったグループがありまして、「府中市にはたくさんの木々があり、名木100選があるので、人々の心が和んでいるのでは」という仮説のもと調査を行ったら、名木は大切にされているものの、認知率は3割にしか満たないということが分かりました。看板をもっと見やすくして改善すること、もっと認知度を上げるためにスタンプラリーなどをしてはどうかという内容でした。

この5つのグループの発表を聞いた高野市長は、その都度、1つ1つに丁寧に回答やコメントをしてくださっていました。ここでは、その内容については紹介せずにおきますが、子どもたちは高野市長から新たな情報を得られたり、高野市長の人柄や存在を身近に感じる事ができたことと思います。最後に子どもたちからは、「府中はふるさとです。これからも市長さんと一緒に私たちもよいまちにしていきたいです」という言葉がありました。

この1年間の総合的な学習では、子どもたちが班ごとに2度にわたってフィールドワークをし、府中を知り、府中のよさともっとよくするための課題を見つけたりと、ふるさと府中を愛する府中っ子を育てるにはふさわしい学習だったのではないかと思います。そして、この学習にはコミュニティ・スクールのお力添えもあったと聞いています。

私は、子どもの視点で、名木100選に目をつけたのは、目のつけどころが違うなど関心しました。子どもたちの発表内容はもっと詳しいもので、市長や生徒たちへの質問も交えながらの工夫を凝らした発表でした。その発表内容を確実に伝えられているか分かりませんが、発表を参観させていただいて、私も勉強になりました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。それでは、松本委員、お願いいたします。

○委員（松本良幸君） それでは、松本よりご報告させていただきます。今日は、教えることのモチベーションについて、自分が感じていることを述べさせていただきます。

私は、JAの仲間たちと幼稚園から中学生まで多くの子どもたちに野菜づくりや米づくりなど、農業体験のお手伝いを長年続けています。毎回同じ説明や冗談を言い続けて指導していますが、その活動の中で私たちのモチベーションを高めてくれるのは、驚きや喜びに満ちた子どもたちの表情を見られることがとても大きいのです。それに加えて気持ちを高めてくれるのは、収穫が終わった後に先生や子どもたちから感想やお礼の手紙をいただけることです。このようなものをいつもいただいております。

教員になられたほとんどの皆さんは、職業としてだけではなく、このような経験をされ、また目指して、先生という職業を選ばれたのではないかと思います。しかしながら、学校での毎日は、子どもと向かい合う時間以外の雑務や保護者との対応などに忙殺され、そのような気持ちも忘れがちになってしまっているのではと心配しています。指導室や校長先生方には、指導や助言だけではなく、先生方のモチベーションアップのために、例えば先生や警備さんへの手紙を書く週間などの企画を考えてみてはいかがでしょうか。

ご参考として、府中第六小学校3年生と本宿小学校5年生からいただいた作文を紹介させていただきます。

これは3年生ですけれども、「松本さんへ。枝豆や水菜、大根の収穫を終えて、家に帰ってお母さんに見せたら、『すごい!』と言ってくれました。みんなのかわりに育ててくれて、

ありがとうございました。家で食べたとき、家族の人も『おいしい』と言ってました。種まきのときも手伝ってくれて、感謝してます。」

もう1点。「畑のことをいろいろ教えてくださって、ありがとうございます。持って帰った大根は、鍋や味噌汁に入れて食べたりしました。枝豆は、お母さんと妹が食べてしまいました。よく覚えていることは、かわいそうだけど間引きをしたことです。やっているときの気持ちは、『おいしくなってね』でした。いろいろ教えてくださってありがとうございました」

次に、5年生に米づくりを教えた時の手紙を紹介します。「私は、田植えのときには田んぼに水が張っていたのに、稲刈りのときからからになって、田んぼの中の虫も見えて驚きました。田植えでは、JAの人が苗を2、3本やるのを手伝ってくれてうれしかったです。田植えから半年たって、苗が黄金の粒になって、食べたときにはとてもいつもの米とは思えない、ねばっとした感じがとてもおいしかったです。最初は、田植えがあまり好きではなかったけれども、今日の体験で好きになりました。農家の人の苦労も同時に味わえました。これからは、米一粒一粒、大切にしていきたいです。」

最後に、「松本さんへ。松本さん、1学期の田植え、2学期の稲刈りを私たちのために丁寧に教えてくださって、また手伝ってくださって、ありがとうございます。私が、今回の体験で学べたことは2つあります。1つ目は、お米づくりが大変だからこそ、感謝を込めて食べなくてはならないことです。お米づくりをして思った以上に大変で、農家の人たちはこんなことをいつもやっているのに、時々気分が残したりしたことがとても恥ずかしいと思いました。私は、これをもとにしっかりとお米を食べて、気持ちを込めて『いただきます』『ごちそうさま』を言うことを心がけます。2つ目は、お米を当たり前のように食べれると思っただけいけないということです。私たちは普通にご飯を食べたりしているけど、もし農家の人がいなければ、私たちはご飯を食べられません。そして、何も食べなければ生きていけない。だから、一粒一粒を大切に食べたいと思います。この2つを学べたのは、今回の体験、松本さんたちのおかげです。どうもありがとうございました。」

こんな手紙をいただいたら、涙が出るほどうれしいですし、言葉はよくありませんが、私もすっかりおせっかい中毒になっているところでございます。

以上で私からの報告を終わります。

○教育長（浅沼昭夫君） それぞれ貴重な報告をありがとうございました。

それでは、これで平成28年第2回府中市教育委員会定例会を閉会といたします。

◇
午後2時20分閉会

以上、会議のてん末を記載してその相違ないことを証
するため、ここに署名する。

平成28年3月16日

府中市教育委員会教育長

浅沼 昭夫

府中市教育委員会委員

崎山 弘